

2013年 地質の日記念イベント！！開催報告

街中ジオ散歩 in Tokyo

「石神井川がつくる地形の移り変わりと地質」

1.まえがき

今春、日本応用地質学会は日本地質学会の共同主催、深田地質研究所との共催、東京都地質調査業協会の後援で、地質の日記念行事として標記の徒歩見学会（研修会）を開催しました。

昨年東京千代田区内での徒歩見学に続き、今回は石神井川の河川争奪と地形をテーマに実施したものです。

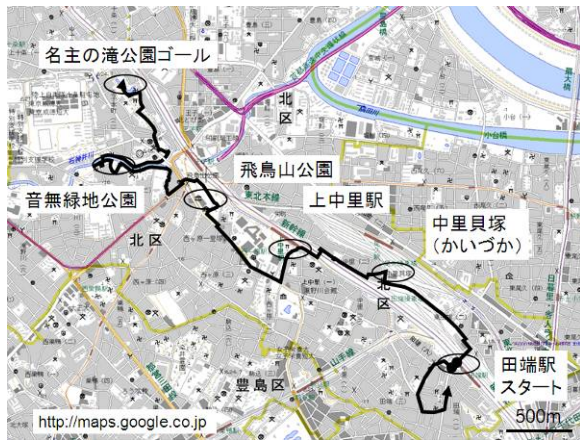


図1 街中ジオ散歩 徒歩ルート

日時：平成25年5月12日(日曜日)
参加者数：39名(うち小中学生2名)
コース：10:00JR 田端駅北口前集合→谷田川→中里貝塚→飛鳥山公園(昼食)→逆川→石神井川沿い音無さくら緑地(露頭)→名主の滝公園
16:30 解散

講師：池田 宏氏(深田地質研究所)
中山俊雄氏(防災科学技術研究所)
幹事：緒方信一、長谷川貴志、原弘(応用地質学会)
中澤努、伊藤谷生、細矢卓志、細根清治、方違重治、加藤潔(地質学会)

2.街中ジオ散歩の状況

前日の雨もやみ晴天に恵まれ、参加者一同、楽しく出発しました。午前中は、石神井川だった広い谷筋(谷田川)を歩き、「本当に凹んでる！」と驚き、また中里貝塚が縄文時代の貝加工工場だったことに感心し、川と海の両方によ

って形造られた地形を足で感じながら歩きました。午後は石神井川が荒川に短絡後、逆さまに流れるようになった逆川跡のへびみちを歩き、石神井川旧蛇行部での東京層の泥岩と砂岩露頭からの岩清水に風情を見、ゴールは名主の滝で涼を得て、1万5千歩にもおよぶ盛り沢山の会でした。以下、御覧ください。



写真1 スタート田端駅前で先ず説明



写真2 田端駅上の台地にできた川跡の凹地



写真3 中里貝塚で海と川と地形と貝工場の説明(池田講師)



写真 4 上中里駅陸橋から台地と低地の境界



写真 5 ほっと昼食，飛鳥山公園



写真 6 くねくね逆川のへびみち



写真 7 音無さくら緑地の露頭前での説明
(中山講師)



写真 8 ゴールの名主の滝で涼しく一息

3.参加者の方々の声

今年も「ゆるい?」徒歩見学会となりましたが、参加者の方々にどのように映ったでしょうか。アンケート結果と感想を御覧ください。

3.1 アンケート結果

1)今回の「街中ジオ散歩」の参加募集をどのように知りましたか。

学会からの案内，メール，SNS，地図中心，ジオスクーリングネット，ネット検索が挙げられ，今後の研修会等は，ネットでキーワードを考えて，早くに掲載することが大切であると思われます。

2)参加した感想をお聞かせください。

- ・説明がわかりやすかった
- ・スタッフが多く，道に迷わなく良かった
- ・参加人数が多いので，立ち止まったの説明場所をもう少し選んだ方がよかったと思う
- ・中里貝塚は一般家庭のごみ箱ではなかったという話は大変興味深かった
- ・昼食時間が遅くなりそうで凹みそうだったが，臨機応変にコースを変えて頂き，適当な時間に昼食にできたのが良かった
- ・自主で入るにしても飛鳥山博物館の案内をしていただいたかった
- ・街中で立ち止まったの説明は聞き取りにくかったが，配布資料から概要は分かり，十分理解できた。
- ・参加者からの専門的な質問応対に時間がかかり，個別対応も必要ではないか。
- ・ぜひ次回の予定があれば参加したい。

・貝塚工場説や河川の流路変遷の話など、興味深かった。

・小休止や昼食時間はありましたが、10時から16時まで歩くのは少々くたびれた。

・配布資料もカラーで分かり易く、現地での説明も大きな図を使った丁寧なもので大変よかった。

・全体的に列が伸びきっていて、一般方々とのすれ違いの時などの場面で、長い列の中の自分に少し、イライラはらはらした。

・身近な地域に、これほどまでにダイナミックな太古の歴史の痕跡が残されていることに感激した。

・講師のご説明も、素人にもわかるように噛み砕いて頂き大変に有りがたかった。

・記念写真も良い思い出になった。

・身体に眠っていた「地学好き」が25年ぶりに再起し、とても興奮して楽しい一日になった。

・座学だけでは分からない、巡検ならではの五感を駆使した今回の体験を大切にしたい。

・普段何気なく通り過ぎるような所も昔の環境を想像しながら実際に現地を歩くのはやはり面白い。

・北区が文化的な町であることを知り驚いた。

・非会員にも開かれた企画で大変良かった。

・低地と台地といった基本的な話から、いろいろ深い議論ができそうな新しいアイデアまで、また、歴史的な話まであり、話のレベルの幅が広く、一般の方から専門家まで楽しめる巡検の内容になっていた。

・説明で使用したキーキーというマイクは街中では難しい。

・理系・文系の情報が交差し贅沢な講話だった。

・このような平易な説明の講演や見学会があればぜひ参加したい。

3.2 参加者の感想

今回、念願の「地質の日イベント」に参加することができました。

というのも、私の職場は博物館。つまり「地質の日イベント」を行っている側にいるため、自身のイベントの日と重なるなど、これまでな

かなか参加の機会が得られずにいました。また、今回のイベントに参加申し込みをした段階では、私はキャンセル待ちであったこともあり、この「地質の日イベント」は、かなり人気であることが伺えました。「地質の日イベント」に参加する側になるというのは新鮮で、非常に楽しみでした。

イベント当日は晴天に恵まれ、5月にしては暑いぐらいの、絶好の巡検日和。集まった参加者は約40名と、ちょっと多人数で大丈夫かなと思いましたが、講師の池田先生と中山先生以外に、9名ものスタッフが同行しており、大勢の参加者にも目が行き届くような配慮がなされていることには感心しました。また、このイベント中は、参加者のみなさんが講師の先生方やスタッフのみなさんに気軽に質問をしやすい、いい雰囲気であったことが印象的です。

講師の池田先生は、小学校へ出向いて子どもたちに授業をされているということもあり、その話の仕方は、易しい言葉を使ってとても解りやすく、しかも情熱に満ち溢れており、聞いていてとてもワクワクしてくるものでした。特に、「氷期には川が元気になる」という表現が心に残っています。

普段、地図上ではよく見えて、知っているつもりになっている場所も、実際に現地へ赴き、地形を体感し、説明を受けながら歩くことで、新たな発見や気づきも生まれました。歩いている場所の、頭のずっと上をかつて川が流れていた時のこと、すぐ近くで磯の香りがしていたであろう時のことなどを想像しながら歩くと、東京の街中でも、壮大な地球の営みの感じることができました。やはり、フィールドに出て学ぶのはいいものだと、再認識させられました。また、今回のルートにあった貝塚は、いわゆるゴミ捨て場の貝塚ではなく、貝工房跡であろうという話を聞くなど、地形や地質にとどまらない幅の広い話を聞くことができた点も良かったです。

この「地質の日イベント」を通して、多くの参加者の方も、これまで以上に地質への関心や

理解を深められたのではないかと思います。私も、自身が行う同様のイベントでは、参加者の方にそう思って頂けるような努力をして参りたいと思います。

今後また機会があれば、このようなイベントに参加し、勉強させて頂きたいと思います。最後になりましたが、講師の先生方とスタッフのみなさまに、この場を借りてお礼申し上げます。

(埼玉県立 川の博物館 杉内由佳さん)

4.あしがき

以上盛り沢山の見学会でしたが、参加者からの感想にも有りましたように、課題としては
1)50名もの大勢が狭い道を歩くことでのきめ

細かな見学と安全との両立、説明について少人数のグループ分けする等参加者がより満足できる体制づくり、2)熱中症対策と適切な休息、3)雨天時の昼食場所対策が、挙げられます。来年はこれらの課題を踏まえてもっと楽しく興味深く安全な見学会にして行きたいと思っています。

この研修会の開催にあたって、池田宏氏、中山俊雄氏、公益財団法人深田地質研究所、一般社団法人東京都地質調査業協会の方々、徒歩見学を許していただいた北区役所や滝野川警察署の方々には大変お世話になりました。最後になりましたが改めて心から感謝申し上げます。

(文責：緒方信一・中澤努)



音無緑地公園の露頭前で記念写真